

いづみ会報

第15号

昭和44年6月15日
発行所 いづみ会
東京都練馬区東大泉町380
都立大泉高等学校内

編集部 いづみ会報
編集行 渡辺印刷所

総会案内

6.29 統一集会に結集しよう

いづみ会の皆さんへ

会長 池辺洋

いづみ会も8,000名という大世帯。学校も28年ということで、伝統なるものが何とはなしの姿を示す頃です。新たな名簿が、学校の、いづみ会の歴史を偲ばせてくれます。

この名簿、特に昨年度の執行部諸氏の大変な努力により見事な出来上り。大事業が果されて、会員相互のきずなが一きわ強くなりました。指導された鰐川前会長、中山事務局長に更めて深謝いたしました。

さて、あとを継ぎまして総会開催という大仕事。人数もふえたし、旧卒生も集めたいし、頃合いもよからうと校外へ出ました。夏のはしりの日曜半日、どうぞご参加ください。

会長が代ったなんて知っているのは

1%くらいでしょうか。情報不足は当然の無関心を生みます。執行部新しくなる、と云ったところでたいしたことではないのですが、それにしても連帶的行動の不足。ところで一方、同窓生とはありがたきものと何度も身にしみているはず。「友達っていいうのは嬉しいものだ」と口走ったら、想いを拡げて同窓会はどうなるだろう、せめて総会にでも出ようかと、語り合う機会が必要です。18才と41才が気楽にやれるとは幸せなこと、先輩の職場を見学して収穫をものしたというのも大いに結構なこと。機会は作らなければやってきません。いづみ会のサロンがほしいですね。行けば誰かに会えるという所



が。海の家、山の家もいふですね。運動部の集まりもO.K.ゼミナールも聞けます。いづみ会刊行の研究誌会製作の映画(校史と云えるものが少くとも1本)。

まずはお金、という問題もありますが、本年は事業計画立てたまゝスタートしてますので、尚プランも寄せて戴きたく思います。別に目新しいことをするつもりはありませんが、世帯も大きくなったり、それこそ対話の場、の変貌は歴史の必然。旧卒生は想い出を、新卒生は3年間に語り足りなかったことを。とまれ、総会には是非。

もっと対話を!

—新校長訪問記—



第6代校長の所弘先生が定年退職され、新校長に間瀬正次先生が就任された。編集部では新校長を訪問いろいろと語って頂いた。

—先ず先生の自己紹介からお願ひしたいと思いますが

「私が大学に入った年は昭和8年で滝川事件のあった年、そして卒業が11年ですから2.26事件のあった年です。結極自由主義とファシズムの時代を経験してきたわけです。昭和11年に東大を出たのですが、考えるところあって小学校の教師を振り出しに、新制高校等の経験を経て39年に都立教育研究所の研究部長に赴任致しました。そこに4年半程おりましたが、一昨年海外研修で西ドイツを中心に視察を行ってきました。」

—先生は同窓会というものをどうお考えですか

「私の富士高時代の体験から申しますと新制と旧制で断絶があり、世代間の差が大きくなればなる程、全員が一堂に会して何かをすることの難しさを痛感しています。最近は同期生の集まりが成功している例を体験しています。私の出た旧制高に

も同期会がありまして、教えを受けた先生方を囲んで懇談し謝意を示すことで連絡がうまくいって、その他かつての青春時代を懐かしく思うあまりに春歌祭などを行つて意気をあげているといったこともあります。」

—最近の高校生についてお伺いしたいと思います

「西ドイツでは選ばれたごく少数の者がギムナジウムへ進んでいくこと、一学級の生徒数が20名前後なんですね。そこで先生と生との対話が非常によく行われているわけなんです。日本では教育の普及という点で高校進学率が高いですが、受け入れ体制が整っていないということで、40名以上の生徒を一人の先生が掌握するのは困難だと思うんです。そこで私は出来るだけ、校長という管理者いうこと、もう一つは教育の指導者として生徒諸君との対話をあらゆる構会にしていきたいと思います。先生がお休みの時は補欠の授業に出ていくことをやっています。また校長室を開放して何かあれば話にくるようにと言っています。

学校群の前後で生徒の質が変化したように思います。そこで生徒の取

り扱いという点でも、以前の生徒はそれぞれ良識を持っていたのでそう先生が直接手を出さなくとも自らの責任と信念で良識のある行動をとてくれたんですが、学校群になってからはそうはいかないのです。で先生の方から積極的に生徒に近づいていって、生徒の実態を出来るだけ把握して、学習や生活の指導をしていくことが必要ではないかと思っています。」

—すると今迄は先生が生徒を余り注意していないといったことがありますか

「まあ良く言えば、高校生ともなれば自律的になって先生が突然しても皆がやてくれたわけでしょう。しかし高校への進学率が高くなりまして今は学校群ですから、必ずしも大泉を狙って入ってきた者ばかりではないわけです。大体大泉へきた生徒は満足感を抱いていますが、中には別のところへ行ったかったけれどもたまたま大泉へ廻ってきたという生徒は不適応といいますかね、大泉高校生としての誇りを持たないと思うんです。そういう生徒を先生方がほつといつていけませんから、それを本校に適応しろ様に指導していかなければならない、そこに難かしい点があるんです。」

—それではこの辺で、どうも今日はありがとうございました。

(文責 高19 山田 進)

思い浮かべた。

一大学とは何だという根本問題を素通りして進学を奨める教師……

—能力別編成実施(注・二年生の数学の授業)による大泉高の予備校化……

—70年前に、現体制からの脱出を。全世界を吹きまくるスチュードント・パワーの嵐は、ここ大泉でも例外でないらしい。そんな中で、ある生徒のモノローグ。

『学生運動? あんなの暇があるからやってんだろう。ああいったエネルギーを僕等はラグビーにつぎこんでいるんだ。』

中庭に歩みを進めると、小さな花壇やベンチが行儀よく並んでいた。本年度卒業生の寄贈だという。そこに腰かけると、頭の上から花やいだ声が聞こえた。

『あの校舎は僕等の代には木造でしたね。』

『今年から視聴覚・家庭科のため鉄筋になったんだ。その職員室の棟もいづれ改築さ。』

ボールが足元にころがってきた。



【本年運動会のスナップ】

泥まみれのユニフォームの一年生が走って来る。

「校庭がいやに高いですね。」

「昨年の冬から盛土をして、ようやく落着いたんだ。これで、アフター・ア・レイン・ノーモアレイク・オオイズミというわけさ。」

「クラブ活動もいっそう盛んになるわけ?」

「だろうね。やや停滞気味の文化部に比べて運動部は仲々頑張っているよ。」

「でも相変わらず生徒会には無関心でしょう!」

苦笑しながらT先生は、タバコの灰をたたき落した。

「競争者なしの会長選挙、定員足

ブクロへ集まろう!!

定期総会御案内

会場 豊島区民センター

(三越裏豊島公会堂隣)

日時 6月29日午後1:30~4時

会費 千円(15期まで)
五百円(16期以降)
宝探しをやろう(豪華景品あり)
ハズレル心配無用!
立食型式(飲食物豊富)

新執行部動き出す

事務局長 遠藤 寛

3月のことであったと思う。突然会長より、電話があった。いづみ会の事務局長を引き受けよ、というたっての御依頼である。私は大いに、とまどい、そして、躊躇した。しかし、会長の説得力は、絶大であった。遂に私は、これを内諾することになったのである。

このような次第で、会長池辺洋中二一昭22年卒一商業デザイナー)、副会長佐々木健雄(高4一昭27年卒理美容学校経営)同市川果(高13一昭36年卒)事務次長石川文武(高13一昭36年卒農業機械化研究所)並びに、事務局の方々20数名と監事静谷哲也(高4一昭27年卒一公認会計士)同豊田亮美(高13一昭36年卒)の皆さんに他に、事務局長として私(高7一昭30年卒一弁護士)が加わることとなった(私は、このようないかめしい名称が嫌いであるが、従来使用してきたということであるから、とりあえず、これにならっておく)。

このようなメンバーで、いづみ会の運営が始まったのであるが、不慣れである上に、殆ど職場をもっておられて、お忙しい方々であるために、なかなか、事がはかどらない現状にある。しかし、事務局の方々の努力によって、ようやく、ここに会報をお届けできることとなった。

この会報は、皆さんに会員の消息その他母校の現状等を伝えると同時に

らずの委員会、ダラダラした生徒集会。」

「いや、まさにそのとおり。でも、グランドファイア(旧称ファイアーストーム)を復活させたり、査定方法を改善したり、多少の進歩はあったさ。」

再び歩きだした私達の足は校門へと向かっていた。いったい、と前置きしてから、

「大泉高校の伝統って、何でしょうね。」

するとT先生は、つぶやくような声で

「自由、だと言われているんだがねえ。」

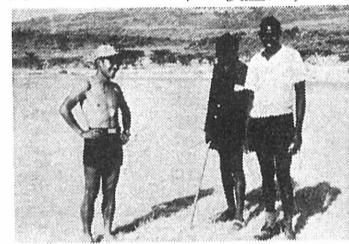
そのことばをふみこたえて、目をあげたとん、再び太陽が木々の間から、さあと音をたててつきさしたようだった。(高20期 後藤和光)

最後に、事務局の希望は、いづみ会によって、多数の会員の親睦を図ることであり、これを、会員の皆さんに、職場において、あるいは、家庭において、明日への精神的糧としていただきたい。そして、このような観点より、今後、経済的、事務的な能力の許す限り、種々の企画をして行きたいと思っている。この点について、会員の皆さんより具体的な御意見をよせて、いただければ幸いである。末筆ながら、約10年間にわたっていづみ会のために、自らの仕事を投げうって奉仕してこられた、鰐川省三前会長、並びに山中茂雄前事務局長の両氏に、とくに感謝の言葉を述べさせていただくとともに、会員の皆さんに対して、今後の御指導御鞭撻をお願い申し上げて、筆を描くこととする次第である。

行ってよかったです…

ある大泉生の記録（高8 山谷敬之）

二月十日夜、ケニアのナショナル・ユース・サービス（国家青年奉仕隊）での体育指導の任務を終えて、二年ぶりに帰国した。東京の夜景は素晴らしいと聞いていたので、期待していたが、上空から見た東京はすっぽりとスモッグに覆われた大きな煙のかたまりであった。二年ぶりの東京の空気はまずかった。ケニアのあの澄んだ空気はもう想い出の中でしか吸うことが出来なくなってしまった。まさか、空気までが想い出になるとは思ってもいなかったが、すべてが想い出になってしまった。私は二年間せっせと想い出をつくっていたのかも知れない。日本を離れた時から、見たこと、聞いたこと、すべてが想い出になる要素を持っていました。日記を読み返してみると、苦しかったことが多く書いてあるが、頭に浮んでくることは楽しかったことばかりである。苦しかったことは得がたい経験として苦しさを差し引いたかたちで頭の中に残っている。任地について早々に泥棒に入られて、ラジオ、衣料などを盗まれて、途方にくれたり、生活に不安を感じたりして、苦しい日々が続いたこともあった。仕事に行っても、始めの頃はお互の意志の疎通が充分に出来ないために思い悩んだりしたことがあった。ケニア軍隊のキャンプ内の隊旗を道路上から写真に撮ったといふことだけで、スペイと間違えられて、逮捕されて、さんざん油をしぶられた上にフィルムを没収されて嫌な思いをしたこともあった。ある事件の目撃者として、警察に不利な証言をしたことから、警察にからまれて、一週間後に、醉払ってオートバイを運転しようとしたという理由で逮捕されて、一晩留置場に入れられてしま到了。このままだと翌日裁判にかけられて、否応なしに罰金を払わされて、前科一犯になってしまおそれがあったので、ねばりにねばり四十キロ程はなれた所にある大



〔ケニアの青年と：筆者左〕

合格であった。それでも血液検査をするというので、血液を取られた。結局、一晩留置場で泊ってしまったが、翌日血液検査の結果がわかるまで裁判はやらないということでお家に帰された。以後署長に会うたびに結果を聞いたが、はじめはまだ結果の通知が来ないという返事ばかりであったが、いつの間にかうやむやに終ってしまった。この件など当時は本当に嫌な気分のものであったが、今になってみると仲々得がたい体験のようにも思える。まだいろいろと苦しかったり、嫌な思いをしたことがあったが楽しい想い出ばかりが浮んでくる。帰国してから会う人ごとにきまって聞かれることがある。「ケニアは如何でしたか。」と。その返事として「よかったです。」とだけ答えることにしている。これ以外に云いようがないほど、私の心はケニアにとらえられてしまったのです。ケニアの

大泉サッカークラブ の発足

1 昨年の秋以来、それまで有志のみで行っていたサッカー部OB会を、会的なものから一躍全OBを同好網羅した一つの組織体にまとめようと、数ヶ月に亘る準備を経て、昭和43年4月7日午後5時から、OB120余名のうち約60名の出席のもとに総会を開き、大泉サッカーチームを発足させた。そして、会長に新倉雄三（中2）、副会長に三沢好章（高8）、三宅勉（高17）の両名を、事務局長に宮寺秀雄（高3）、会計係に金井極（高15）、監査役に鰐川省三（中3）の各氏をそれぞれ選出し、規約を採択した。また、総会は毎年4月に開催することとし、会費は、卒業5年までは年額500円、5年以上10年までは1000円、10年以上の者は1500円とすることを決めた。

なお、当日は、総会にさきだち、桜花爛々たる母校グラウンドにおいて、在校生を交え、老若いりみだれての紅白試合を行い、統

出する珍プレーに笑いこけながら楽しい半日を過した。またこの日には大泉高校サッカー部三代目の部長多和健雄先生（教育大助教授）

（テレビに活躍中）、国際審判員佐藤弘氏（高1）や、サッカーの名門校静岡県の藤枝東高校の蹴球部長長池実氏（高2）の各氏らも参加した。

2 昭和43年度は、東京蹴球協会主催の東京サッカークラブ・リーグ戦に出場して見事優勝を飾り、ま



た年2回開催される練馬区民大会に出場し、春の大会は優勝、秋は惜しくも決勝で敗れ準優勝となつた。一方、在校生の夏季合宿援助資金として金2万円を母校サッカー部に寄付した。

3 昭和44年4月6日午後5時から会員数50名の出席を得て定時総会を開催し、ビールをかたむけながら旧懐をあたため楽しい団欒のひとときを過した。なお、恒例により、当日午後1時から母校において在校生を加えて親善紅白試合を行い、愉快な時間を過した。

4 今後は、組織を一層強固にし、会報の発行、名簿の調整など体質

自然の素晴らしいところと調和した町とともに、私を魅きつける。東部のインド洋に面したヤシの木が茂る海岸の港町モンバサから、花が咲きみだれる高原都市ナイロビ、リフト・バーの雄大な景観と湖、数百万羽のフラミンゴを湖面に浮べるナクル湖をもつ東アフリカで一番美しいといわれる町ナクル、茶烟に囲まれたお茶の町ケリチヨウ、そして西部のビクトリア湖岸の町キヌムまですべてが好きである。南のキリマンジャロの麓からマウマウ団が立てこもったアバディア山塊、赤道直下の高峰ケニア山、そして北部の野性のエルザで有名になった半砂漠地帯まですべてが好きである。しかし、自然以上に私を魅きつけたものは人間である。悪い連中もいるが善良で、素朴な人達がほとんどである。二年間で多くの友達を得ることが出来た。仕事の仲間、飲み友達、家族ぐるみの付き合いや旅先での友人と数えあげたら切りがないほどである。ケニアには大小合せて約五十部族ぐらいあるといわれているが仕事の関係で多くの青年たちに接したので、いろいろの部族出身の友人を得ることが出来た。ケニア最大の部族で指導的立場にあるキクユ族、それに対抗意欲を燃やすルオ族、戦斗的な部族といわれるワカンバ族、ケニアのサッカー界を牛耳っているバルーヤ族、オリンピック優勝者二名を出して走ることに自信を持っているカレンジニア族、それに対抗するキシイ族、すばらしい容貌と均齊の體格をもちら文明に背に向いているマサイ族、と次から次へと各部族出身の友達の顔が浮び上ってくる。私は彼等の一人一人に想い出があり、心のつながりがある。私の帰国際、彼等に「今度はいつケニアに帰って来るのか。」とさかんに聞かれた。異人種の私をまったくケニア人と同様に受け入れてくれた彼等にもう一度会いたい気持でいっぱいである。アフリカには毒があるという。その毒が一度身体の中に入ったら、けっしてアフリカを忘れることができない。きっとまたアフリカにもどってくるという。私も二年間にすっかりこのアフリカの毒にやられてしまったようである。

昭和36年卒の皆様へ一皆様、お元気でそれぞれ御活躍の事と存じます。6月29日の総会には是非御出席下さい。新しい名簿を同日皆様のお手許にと幹事一同今からお逢い出来る事を楽しみしております。36年幹事学校より一來る9月20、21の両日、母校に於て文化祭を行います。皆様お誘い合わせの上お出かけ下さい。

社会部OB会の歴史は古い。昔、社研部と地歴部が社会部といつつのクラブであった時から続いている毎年、春になるとOB会が開かれる。今年は、四月二十日の日曜日に池袋の喫茶店セシボンで開かれた。当日は朝から良い天気で喫茶店で行うのがもったいない気がする程だった。午後2時の開会の時間に来ていたのは、わずか一人、どうも時間の観念のないのはあいかわらずであった。三十分位たったところで一通りのメンバーがそろったので開会、まずは次期会長に地歴の横島さんを選んだ。あとは大学の話に花が咲いた。それをとりまく社会の情勢などを巡って、熱の入った議論をした。だが、やかてその話も一段落すると、なんなく退屈な雰囲気になってきた。というのは、来た人間のほとんどが大学生（予備校生も含む）で大先輩の姿がみられなかつたからだ。毎年、同じ趣向でOB会が行われる故であろうか。しかし、大先輩の話が聞けなければ会のメリットは半減する。昔の活動の状態、社会に出て感じたことなどを話してもらいたいと思う。社会部のOB会も、顔を知っているOBのみで構成されている現状を突き破る必要があるだろう。そうでなくては、やがて社会部OB会の存在意義そのものがなくなつてしまいそうな気がする。

我が校歌の由来

編集部では永いあいだ親しまれていた校歌の成立事情を、母校国語科の橋本精一先生に解説して頂いた。

昭和27年、本校は日夏耿之介先生に校歌作曲をお願いした。作詩者に

日夏先生を主張された河合先生が阿佐が谷のお宅へ行かれた。ところが、校歌作曲は詩想を規制するということで、それまですべて断わって来られたそうである。本校のお願いも初めは断わられた。しかし河合先生はそれからも数回お願いに行かれました。私も一度河合先生のお供をしたことがある。この高名な高踏派詩人、あの一大ドキュメント「明治大正詩史」の著者に会えることは嬉しかった。色々お話をうかがいながら、先生自らいれてくださる玉露をいただいたこと、鴨居にあった燕村の扁額などが印象に残っている。

結局本校の熱心なお願いに、アイデアが浮かんだら、という約束をいたしました。一度自動車で学校周辺、石神井池などを案内した。ついにアイデアは浮かび校歌はできた。作曲は先生の親友小松清氏というご指定であった。29年10月14日、練馬公民館での文化祭（当時は音楽と演劇の会と言った）当日、校歌制定発表会が開かれた。作詩者作曲者のお話をあった。

歌詞は(1)まず新古今集の武蔵野そ

通 信 欄

19同期会—去る3月30日に新宿西口会館で、雨が激しかったにもかかわらず80余名の参会者を以て盛大に行われました。次の同期会の計画はまだありませんが、幹事以外の人もどしどし企画を出して同期会を開いてほしいと思います。なお当日の写真（カラー）が出来ています。クラス会などやる時はお貸します。また写真のほしい方は山田まで連絡して下さい。

昭和36年卒の皆様へ一皆様、お元気でそれぞれ御活躍の事と存じます。6月29日の総会には是非御出席下さい。新しい名簿を同日皆様のお手許にと幹事一同今からお逢い出来る事を楽しみしております。36年幹事学校より一來る9月20、21の両日、母校に於て文化祭を行います。皆様お誘い合わせの上お出かけ下さい。

編集部より一この通信欄に載せたいことや、本会報を読んでの感想なり批判なりを寄せて下されば幸いでです。大泉高校内いづみ会宛。

新名簿実費頒布—希望者は各期幹事宛連絡乞う。一部300円。B5判上質紙使用220ページ、総索引付。

20同期会（43年卒）—卒業後初の同期会を6月1日池袋ます久で開催出席者45名！往復葉書回収率39%！と低調で、かつ葉書代等経済的基盤の欠陥、一部幹事の非協力等色々問題を投げかけたが、今後一般会員の意識向上を願う次第である。西尾

異動職員

昭和43年度

所 弘	校長・3年→退	職
佐 伯 香	音楽・7年→学芸大学	
竹 内 芳 勝	体育・4年→戸山高校	
千 葉 忠 夫	事務・→小石川高	
星 野 カツミ	1年→砧工高	
	（転入 4名）	

進 学 状 況

東京学芸大	26	東京教育大（体）
千葉大	21	お茶水大 各4
東京農工大	13	宇都宮大 3
京都大・都立大		水産大・名大・帯
埼玉大 各11		広島大 各2
東工大 10		福島大・山梨大・
横浜市立大 9		名工大・広島大・
一橋大・東北大		鹿児島大 各1
電通大・東京外		早稲田大 120
語大 各8		慶應義塾大 62
横浜国大 6		理科大 19
北海道大・東京		上智大 18
芸大 各5		立教大 17

就 職 状 況

トヨタ自動車販売・東京ガス・パレスホテル・商工中金・国税庁・第一銀行・安田信託・巣鴨信用金庫・大東京火災・丸紅飯田・日本航空・海事協会 各1 アルス工芸 2

【編集後記】

○卒業してから1年数ヶ月、会報編集はかくもつらきものと知り、会員の御熟読を期待するものなり……N○卯月半ば会報編集の命を受けてよりふた月、東南西北あらゆる方に走り記事を集めぬ。されど記事さらに集まらず、はたまた小学生の一身にふりかかる事あまた起きてはかどらず。我を助くる者少なけれど大いに力を得る。されば詠める一人はいさむも知らず会報よ我らが憂ひ知る人ぞ知る一かくして成る会報を手にする君よ、心あらば伝へてよ、この会報を読みての思ひを。

（高20 讀井正光）